

区の評価及び意見(区役所地域担当)

【 城 東 区 】 (受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会 )

I 年度末評価

取組実績の評価(1)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施状況	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	各地域で地域課題について自由に議論できる場を持つことは、地域ビジョンに向けた活動を進めるうえで不可欠である。各地域ごとの実情に見合った形で支援を行うことができている。	地域の課題を他人事ではなく自分事として取組んでいくように、また区役所から補助金を受けたから地域行事をするのではなく自主的、積極的に参加するように意識改革を進めており、部会活動も活発になりつつあり評価できる。	意識共有するため情報発信は不可欠であり、一層深めるためのラウンドテーブルの実施は有効であり評価できる。また、SNS(Facebook)勉強会の開催するなど、積極的に地域に働きかけを行っており評価できる。
	(2)「つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	2月6日現在、全16地域のうち、13地域でSNS、2地域でホームページの開設を完了。SNS未開設の残る3地域についても、3月末までに完了予定し、SNSは全地域で開設完了の見込み。 紙媒体のポスター・チラシ・ニュースの作成にも力を入れている。 開かれた組織運営のため情報発信は不可欠であり、そのための支援を行うことができている。 また、各部会運営で自由に意見を発言できるよう支援できている。	SNSおよび紙媒体の両方で広報に力を入れて支援をしたことにより、実施事業への参加者が増えてきており、開かれた組織運営、また人材の育成・発掘にも寄与できており評価できる。	地域活動に参加していない住民への広報活動は重要であり、そうした住民のニーズを把握して対応策を検討し支援をしていく姿勢は有効であり評価できる。
	(3)「組織運営」にかかる支援の実施状況	開かれた組織運営と会計の透明化のため、適切な総会や運営委員会などの組織運営と会計処理は不可欠であり、また情報発信としての広報活動はそのための必須条件であり、それぞれに支援を行うことができている。	規約に沿った運営・75%補助への対応として中間決算実施の会計支援により、総会、運営委員会を開催し、予算決算、事業報告など組織としての運営を適切に行うことができるまで支援できており、評価できる。	より広く、多くの地域住民に広く情報提供できるように、全地域へのSNSの導入は、渴望される新たな担い手の発掘にも有効であり評価できる。
	(4)「区独自取組」にかかる支援の実施状況	CB/SBに対する勉強会や先進事例の紹介と他区事例の実施意向調査をするなど支援をおこなったが、2地域以外に実施の必要性を理解するまでには至らなかったことをふまえ、具体的な実施事例を提示して「気づき」をおこすきっかけづくりをしたことは有効と考えており、そのための支援をおこなうことができたことは評価できる。	意識改革をするため、検討している事業規模は小さいが取り組みやすいように工夫をして支援できており、有効と考えられ評価できる。	地活協として商店街で夜店出店したの取組みは、実施に至るまでの打合せ会議の積み重ねや出店にあたっての講習会の開催など、地活協として収入を得るまでの意識の共有ができたことは評価することができる。 会議での議論の上で合意形成まで粘り強く支援を行ったことは、有効であり評価できる。 現在の各地活協の実態にあった、すぐ身近にできることから地道に取組むよう丁寧に説明し進めており、今後に期待でき評価できる。

取組実績の評価(2)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施体制	(1)自由提案による地域支援の実施状況	当区では自由提案はありません。	当区では自由提案はありません。	当区では自由提案はありません。
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	支援員の勤務体制が週2日もしくは3日であり、日々連綿と活動している地域に対応するには毎日の勤務が望ましい。 8月末に支援員1名が急に退職となったため、担当地域との信頼関係を築くまで時間がかかることは避けられず、痛手である。	地域により到達度に差は生じているが、全体として次のステージに進む素地はできると考えられ、「様式4 地域活動協議会の運営状況」の表中、中間評価時よりも一段階上の評価になっている地域が増えていることから、その支援は有効と考えており評価できる。	支援員が変更した地域へのフォローは、評価できる。 状況により本部からの支援を要請するなど地域運営が遅滞しないよう十分な体制をとることが必要である。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	単発的な欠員、緊急対応はアドバイザーがフォローできた。8月末退職への対応は、新たな支援員の配置を本部に要請し、他の支援員も含めたフォロー体制を作り、新任の迅速な選任を行っており評価できる。	対応策は有効である。支援員の急な異動は、担当地域との信頼関係を気付くまでの時間がかかることが避けられないが、影響ができるだけ少なくすむように新任支援員の円滑な選任を行ったことは評価できる。	課題に対して課題認識され、改善策も評価できるが、他地域担当の支援員が補佐するというだけでなく、地域と齟齬が生じないよう積極的な関与が望まれる。
	(3)区との連携	支援員の日報・月報による報告に加え、タイムリーな情報の共有がされるようになり評価できる。	区役所担当とアドバイザーとの情報交換だけでなく、区役所担当と各支援員も細やかな情報交換をすることができるようになったことは評価できる。	地域活動協議会連絡会の場では、まちづくりセンターから発言ができていないため、10月27日に初めて開催された「地域活動協議会情報交換会」の場などでも、まちづくりセンターとして積極的に発言を行い、今後一層の支援を行うことを期待している。

取組効果の評価

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析に対する評価	ウ 今後の改善策等に対する評価
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・適切であると感じている: 60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる: 50%以上	<p>・「問1 支援は地域の皆さんの活動に他区に立ちましたか」について、中間評価アンケートでは①そう思う(39.0%)②ややそう思う(30.2%)の合計69.2%が、この期末評価アンケートでは①そう思う(42.8%)②ややそう思う(29.5%)の合計72.3%と評価が少し上がっている。</p> <p>・「問4 自律的な運営に取り組んでいる」については、中間評価アンケートでは①そう思う(19.2%)②ややそう思う(31.4%)の合計50.6%が、この期末評価アンケートでは①そう思う(16.3%)②ややそう思う(33.7%)の合計50.0%と評価はほぼ同じであった。</p> <p>いずれも目標を達成しており、アンケート対象者が流動的な形で行われた結果であることを考慮しても、評価できる。</p>	「法人格取得や地域公共人材、他団体との連携」に関して問題点をあげ、現状認識しており、地域のと信頼関係を醸成しながら、各地域の実態にあった支援を進めている点について、評価できる。次のステージに向けて、さらに進展が期待される。	法人格取得や地域公共人材に関して、さらに次のステージに向けた課題への取り組み姿勢は評価できる。
	(2-1) 「地域課題への取組」達成状況	おおむね取り組みはできており、地域による差が生じてはいるが、すべての地域について一定レベルに達しており評価できる。	会議など議論する機会の多少が地域格差を生んでいることをすでに把握しており、地域格差の解消に向けた今後に期待でき評価できる。	全体で取り組むのではなくテーマが共通している部会から活性化させる手法は、今後の取り組みとして評価できる。
	(2-2) 「つながりの拡充」の達成状況	部会内の団体間で連携を取りながら地域活動を実施したり、部会内で情報交換を進める努力が行われだし、外部団体との連携が始まるなど徐々に「つながりの拡充」の必要性への理解が進んできたことは支援によるものと評価できる。	「つながりの拡充」にむけた団体間の交流の場づくりは、さらなる地域の活性化につながるが今後期待され評価できる。	各地域活動協議会の部会内での情報共有、また広報担当者に対する勉強会は、同じテーマで活動をしていることから活発な意見交換が見込まれ評価できる。
	(2-3) 「組織運営」の達成状況	運営委員会実施に関して、規約に沿って会議を実施できており、会計に関しても地域の力量に格差があるが、現在一般社会的に求められているレベルに対応できる支援ができていないことは評価できる。	これまで情報発信の重要性に理解が進んでいない地域について、市民の補助金に対する関心が高いこと、情報公開は今日の社会に対して果たすべき責務であることを伝え、粘り強く啓発に取り組み、SNSの全地域開設達成や紙媒体の広報の指導に力を入れるなど、問題意識を持って支援を進めており評価できる。 情報発信に力を入れるなかで、情報共有の重要性への理解を進めており評	これまでの地域団体で行っていたような特定の担当者にかかる方法では、新たな後継者が生まれず、わかりやすく取組みやすい方法を提案しており、評価できる。
	(2-4) 「区独自取組」の達成状況	CB/SBの具体的な実施は困難と考えられていたが、城東地域の実績は規模は小さくとも意識改革として有効である。	地域の理解が進まない中での実施は、他の地域への波及効果も期待され評価できる。	補助金の補助率が75%となった今年度の収支を考える上で、CB/SBは大きな意味を持つてくることが予想され、地域活動の継続に必要なこととの理解を深めるため引き続き支援するとしており評価できる。
(3) その他の効果のあった内容	当区、特になし	当区、特になし	当区、特になし	

全体的な評価

全体的な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間支援組織は、16地域活動協議会を対象として、地域の力量に応じて、各種事業実施や会議開催、会計の個別支援を行っており、地域に共通する行事や事務について、概ね順調に支援できていると評価できる。</li> <li>・さらに、地域の間づくりや情報発信支援等の地域課題、つながりの拡充の取組を積極的に行っており、地域特性を踏まえたCBの取組事例も行っているところである。</li> <li>・アンケート調査結果においては、目標数値を達成できており、地域からも取組を評価されている。また、期末では数値上も評価が高まっている。</li> <li>・全体として、地域の各種団体やそのキーマンと信頼関係をうまく築き、着実に支援を行っているとして評価できる。</li> <li>・次年度も引き続き、同じ支援員が同じ地域の支援を行うことが地域にとって有利であると考えている。</li> </ul>
--------	---